

県議会 12月定例会 (2012年)

# 保健医療大 定員増を検討へ

看護師  
養成

こんにちは

## 渡辺ゆり子



2013年1月13日  
-39号

発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺 ゆり子

<連絡先>  
県議会共産党執務室  
電話 023-630-3241(受付)  
自宅：山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365

昨年、県議会12月定例会で、看護師養成の課題を取り上げました。(厚生環境常任委員会、12/18)

私は、「看護師確保の課題が議論され、養成定員増そのものを求める関係者の声が強くなっている。来年度予算の健康福祉部の要求概要にも方向性が出ているが、どうとりくんでいくのか」と質しました。船田孝夫・地域医療対策課長は、「2013年度に看護教員養成講習会を開催する。これまでに希望があっても他県で受講しており、また地元優先のため県内で受講するのが難しかった。県内で開催することで、看護教員の養成を図りたい。また、県内高校から県外の看護大学に進学している方も多く、県内での進学・定着を図るため、受け皿となる県立保健医療大学の定員(現在1学年あたり50人)の増加に向けた検討をしてい



きたい」と答えました。私は、「看護師不足に悩む現状にあつては、ぜひ進めてもらいたい

### 中小水力発電の推進を

エネルギー・危機管理対策特別委員会

12/19

県エネルギー戦略によるとりくみがすすめられていきます。私は、水力発電について新年度予算要求概要に盛り込んでいる企業局に対し、その内容と姿勢について質しました。青木良一・公営事業課長は、「中小水力発電開発事業として、新規水力発電所建設に向けた基本設計や、環境影響調査にとりくむこと、量水所小水力発電設備の整備をすすめていく」と答えました。私は、「小水力や農業用水を活用した発電のとりくみを重ねていくことが大切だ」と指摘

「計画にも看護師確保の方向性は同様に盛り込むこととしている」と述べました。

し、「自治体や関係者への企業局の技術支援や、小水力発電の理念など含めて伝えていく必要があるのではないかと発言しました。遠藤嘉一・企業局長は、「まず事業者や関係者に見ていただくのが一番かと思う。『小水力発電とはこういうものだ』という理念も含め示していきたい。これまで各種会議や講座などでとりくんできたが、今後さらにおすすめしていきたい」と答えました。

### 新春の街頭宣伝

#### 参院選へダッシュ



今年には参院選がおこなわれます。2日には太田としお参院山形選挙区予定候補、山形市議団とともに、新年のあいさつと決意を述べ、参院選に勝利し国民の願いを実現する政治をつくらうとよびかけました。

### 政務調査費

#### 拙速で県民の理解得られない

#### 条例改正に反対討論

県議会12月定例会の最終日(12/20)、議員の政務調査費を政務活動費とする条例が提案されました。地方自治法改正に伴うもので、これまでの「議員の調査研究活動のための費用」から、「議員の調査研究活動その他の活動のための費用」とする

もので、政務活動費の範囲を条例で定めるとしています。私は討論で、「政務調査費をめぐっては住民監査請求や訴訟の対象となっており、その使途や透明性について疑

問視されている」と指摘、条例の基本的考え方や運用の具体例も含め住民の声を聞き、それをふまえ慎重に議論すべきだと主張し、「拙速な条例改正は県民の理解を得られない」と結びました。私ひとりのみの反対で、条例は可決されました。

### ゆり子の視点

昨年暮れ、ベアテ・シロタ・ゴードンさんが亡くなられたニュースが流れ、山形で講演されたときを思い出しました。戦後の日本国憲法の草案に関わった方で、当時の様子を熱く語られていました。ベアテさん自身が日本で10年間過ごし、日本の現状をよく知っていたこと。女性の地位向上の分野を担当して奮闘したこと。それぞれの分野で、国際的に当時の最高水準の憲法になるよう資料を集め持ち寄り、日本の現状とあわせ議論

### ベアテさんと日本国憲法

総選挙後、自民党政権になり、「国防軍」や「憲法改正」などの言葉がとびかっけています。が、狙いは「戦争できる国」に他なりません。戦前からの平和と民主主義を求め、戦後は、「二度と戦争しない」との日本国民の思いを込めた平和条項などに結実しました。まさに、「紛争の解決は平和的・外交交渉で」が世界の流れになりつつあります。先駆的な日本国憲法をみんなで学び、話し合い、使っていくようではありませんか。